

令和5年度 自己評価シート

認定こども園 おりーぶの森

1. 教育・保育理念

子どものよりよい成長と発達を願い 子どもには楽しさを 保護者には安心を 第一義に考え
地域になくってはならないこども園を目指す

2. 教育・保育方針

- 発達を促せるように、一人ひとりを大切にする
- ・生きぬく力、人のいたみのわかる 子どもを育成する
 - ・自己肯定感、自尊心の持てる 子どもを育成する
 - ・仲間とあそぶことにより、社会的な人格を形成するための基礎を育成する
 - ・自然に触れることにより、子どもの感性を育成する

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組み内容	自己評価
職員間の共通理解を図りながら、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、園の理念・方針にしたがい、全体的な計画を編成・実施している。	教育・保育要領を理解し、保育の中でどのように反映させていくのかを職員会議や園内研修などの機会に職員間で話し合い、共有し、活かしている。今後さらに全職員で共通理解を深めて、保育を行っていききたい。	A
指導計画は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、全体的な計画、子どもの実態などをもとに考えて作成し、評価・改善を行う	全体的な計画や教育課程をもとに各種指導計画を作成している。年度末の職員会議には、子どもの実態をもとに話し合い、これらの見直しを図っている。月間指導計画や週案等については、日々の子どもの育ちや成長をしっかり捉え子どもの成長や興味関心に基づいて作成し、毎月の職員会議において共有している。行事は、ねらいや内容を明確に示し、指導案を基に実践している。今後、各年齢ごとの指導計画について、より意味のあるものになるよう、作成する間隔等改善を図っていく予定である。	B
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	日々の保育の中でのエピソードなどから、子どもの育ちを捉え振り返り、翌日の保育へと繋げている。日々、子どもの主体性を大切に考え尊重し、一人ひとりの興味関心を見逃さず、十分に満たしていけるような環境構成や子どもとのかかわり方について具体的に考え、保育の充実に努めている。	B
各クラスの成果と課題を報告する。	日々のミーティングや職員会議で、保育中のエピソードやクラスの様子などを報告したり、クラスの日誌やおたより、動画配信のアプリ内での閲覧などにより共有することで、子どもへの理解を深めたり、各クラスの保育内容を共有したりしている。今年度はクラスミーティングを定期的に行うことができなかったため、次年度はクラスミーティングの充実を図っていききたい。そして、クラスの担任全員で保育の実態を振り返ることで、よりよい保育を目指していききたい。また、特別な配慮の必要な子どもや保護者についても、情報を共有し全職員で一貫したかかわりができるように努めていききたい。	B
子どもの良さを認めて評価しようとしている。	一人ひとり、発達課題が異なり、また、一つ一つの行動にはその子なりの意味があることを理解した上で、受容、共感することを大切にかかわっている。「なぜそのようなことをしたのか」ではなく、「どんな目的でそのようなことをしたのか」と行動の意図に目を向け問うことで、一人ひとりの一つ一つの行動を肯定的に捉えていききたい。	B
あそびを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	子ども同士でのあそびの中で、共通の目的を持って相談したり工夫するなど、意欲的にあそびを広げている。保育教諭は子どもの主体的な活動を大事にかかわるよう努めている。子どもの興味関心を見逃さず、確実に拾い上げながら、感性豊かにかかわり、必要な援助や環境の充実を図っていききたい。	B

<p>規則正しい生活習慣の定着、手洗いうがいの定着等に向けての指導を行う。</p>	<p>ブルーあそびをする機会に改めて朝食の大切さについて、子ども達には視覚教材を用いてわかりやすく話す機会を持った。また保護者に向けて、ブルーあそびでの事故防止であることも含めて、バランスの良い朝食を摂ることのお願いをした。今後は、年々遅くなってきている就寝時刻の改善について働きかけていきたい。マスク着用は必要に応じて行っているが、取り扱いに関しては、保育教諭の指導や保護者への周知が改めて必要である。看護師による保健指導では、からだのしくみや生活習慣について学ぶとともに、手洗いの実践等を行った。日常生活の中で、丁寧な見守りやかかわりを行い、子ども自身がしっかり獲得できるようにしていきたい。</p>	<p>A</p>
<p>季節の草花を園庭に植える。 生き物を飼育する。 各コーナーのおもちゃ、絵本の充実を図る。</p>	<p>園庭には草花や木々があり、草花や虫などに身近に触れることができる環境がある。子ども達は草花や虫を積極的にあそびに取り入れ、日々様々な発見をしている。飼育しているうさぎは、お世話をしたり、金網越しに草をあげたりと年齢に応じた触れ合いを持っている。園内や散歩先で見つけた昆虫などの飼育は、各クラスでさらに大切な機会と捉え大事に取り上げていきたい。各クラスのコーナーのおもちゃは子どもの興味や発達によって入れ替えるなど、保育環境の再構成を行っているが、改めて見直し改善していく必要がある。</p>	<p>B</p>
<p>日々の生活と遊びのを通して「食」に関わる体験を積み重ねることで、「食を営む力」を育成する。</p>	<p>年齢ごとに畑やプランターで作物を育て、その生長に触れ、収穫した作物を実際に口にすることで、食べることへの興味関心が深まり、意欲的に食べようとして、「おいしい」と感じる事ができた。また、給食の食材に触れたり、野菜の皮むきや食材を切ることを手伝ったりする経験もできた。さらに、秋サンの食育や鮭の解体では、命をいただくことについて学ぶことができ、魚に興味を持つ様子も見られた。4歳児から5歳児に継続される食育として、味噌づくりを行うことができ、食することができたのは、とても貴重な経験となった。</p>	<p>A</p>
<p>衛生管理を徹底し、感染症の予防と集団感染を防ぐ。</p>	<p>看護師による毎日のドアノブの消毒、おもちゃの洗濯や消毒、保育室の消毒などをより徹底し、引き続き感染症を含む各種感染症の予防や感染拡大防止に努めている。食事はコロナ以前に戻り対面で摂れるようになった。マスクの着用は感染症の拡大が懸念されるなどの必要な場合のみに行っている。感染症が確認された際には、室内環境の消毒を徹底的に行い、また保育環境を工夫し感染拡大を防ぐための対策を行った。</p>	<p>A</p>
<p>特別支援教育の理解を深め、一人ひとりに必要な配慮をしながら、発達の支援をする。 家庭、医療機関、関係機関等との密な連携を図る。</p>	<p>配慮が必要な子どもに対しては、家庭や関係機関との連携を図りながら、一人ひとりの発達特性や障がいについて十分に理解した上で、個別の支援計画を作成し支援を行っている。他児とのかかわりの中で共に成長することを大切に捉え、必要な配慮を行っている。今後は、療育支援や病院などとの連携を今まで以上に深め、一貫性のあるより良い支援を行うとともに、全職員間で情報共有の機会を作り、園全体で見守ってきたい。</p>	<p>B</p>
<p>小学校へのスムーズな接続が図れるような工夫や取り組みを積極的に行う。 幼保小連携研修に参加する。</p>	<p>1月には近隣の協力を得て、学校見学を行うことができ、教室で授業見学をしたり、校内見学をすることができた。また、1年生と校庭で遊ぶ経験もでき、とても良い経験となった。入学予定の小学校をバスで巡ることもでき、就学を控えた子ども達にとっては、とても貴重な機会となり、安心感や期待感へと繋げることができた。次年度は、修了時の園児の姿を学校教師に実際に見て知ってもらう機会や、就学後の子どもの様子を見学させてもらう機会を作ってもらおう働きかけていきたい。</p>	<p>B</p>
<p>職員の安全管理の意識を強化する。火災・地震などの災害発生時、不審者侵入時の安全確保のための通報・避難・保護の方法手段を共有し、訓練を行う。防災・防犯マニュアルを策定する。</p>	<p>毎月の避難訓練やその他様々な災害を想定した訓練を行い、非常時に対する意識を持てるようにしている。今年度は不審者対応訓練の機会を多く持ったり、非常放送などの役割を担当が経験するなど管理職がいない時にでも誰でも対応できる実践的な訓練を行うことができ、職員が改めて緊急時の対応について考えることができた。今後もさらに様々な想定での訓練を行い、非常時の職員の対応を改めて明確にし、全職員が主体的に判断し動けるようにしていきたい。</p>	<p>B</p>
<p>園だよりやホームページ等で、教育・保育の状況を伝え、保護者と情報共有を図るとともに、理念・方針への共通理解を図る。</p>	<p>日々の保育日誌はクラスに掲示したり、アプリで配信したり、連絡ノートで共有したりしている。今年度は、アプリでの動画配信も行い、クラスごとに伝えたい子どもの姿を届けられた。また、行事やクラスの様子は、園だよりやホームページ等でわかりやすく伝えている。送迎時は、子どもの様子を保護者に伝え、共に成長を喜ぶ機会になっている。保育参観weekでは、日々の保育を見もらう機会となっている。年度末の保育参観や絵画足形展では、クラスで大切にしていること、子どもの育ちの共有や保護者間同士の交流を深めたり、園で大切にしている描画活動やだし保育の実践を報告・共有することで、保護者の子ども理解を深めることができた。</p>	<p>A</p>
<p>地域の子育て家庭に対して、子育てに関する情報の提供や気軽に集える交流の場を提供している。</p>	<p>子育て支援「たんぼのへや」を週2回、園庭開放は毎日行っている。子育て支援では、毎回数組の親子の参加があり、子どもの主体的な遊びを大切にし、その重要性を伝えるよう心がけ、母親に寄り添う支援を行っている。今後は、さらに親子の触れ合い遊びなどを多く取り入れたりと、継続して通いたくなるような仕組みを作ったり、家庭での子育てが豊かになるような支援を目指していきたい。また、看護師による栄養・発達相談が充実していけると良いと思う。そして、地域の保護者同士を繋ぐ場になるよう努めていきたい。</p>	<p>B</p>
<p>教育・保育の質の向上のために、園内研修を充実させる。また、各研修会や研究会に積極的に参加し、職員に情報提供や資料提供をする。</p>	<p>学び続ける姿勢を大切にし、職員一人ひとりの技能・技術の向上を目指している。キャリアアップ研修の他、視察研修に参加し、他園の保育や環境に触れることができた。また2月の定期研究発表研修会では、他園の保育教諭とグループディスカッションを行い、とても良い機会となった。全職員での園内研修では、昨年度に引き続き「リズムあそび」について実践中心の研修を行い充実を図ることができた。日々の保育の中でさらに充実を目指していきたい。</p>	<p>B</p>

職員の心得を熟読し、職員としての質の向上をはかる。	一人ひとりが認定こども園の職員としての自覚を十分に持ち、子ども、保護者、職員とかかわっている。一人ひとりの個性や強みを活かしながら主体的に職務にあたっている。決して自分本位ではなく、子どもの共感に基づいてアタッチメントを行っていくことの重要性について共有することができた。今後さらに、一人ひとりが向上心と意欲を持って活き活きと働けるよう努めていきたい。	B
---------------------------	--	---

4. 総合的な評価結果

理 由	自己評価
今年度は、ほぼコロナ前の生活や行事開催となり、数年ぶりに地域の方も含めたバザーや交流を含めた保育参観などを行うことができた。保育に関しては、年齢ごとに子どもが主体の保育を心掛け、必要に応じて見直したり、改善を図り、子どものよりよい育ちを大切できるようにした。保育や行事に保護者の参加や協力を仰ぎ行うことができたものも多くあり、園と保護者とが協力して子どもたちの育ちを見守ることができた。園内研修では、リズム遊びを実践し職員全体で改めて学び共有した。体の発達や一つひとつのリズムの動きを確認することで、すぐに現場の保育に活かすことができた。次年度においても、子どもを中心に捉え、保護者とともに最善の教育・保育について考え、成長とともに喜び合っていきたい。	B

「3.4.」の評価結果の表示

評価	十分達成されている	A
	達成されている	B
	取り組まれているが、成果が十分でない	C
	取り組みが不十分である	D

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育の充実のための環境を整える	年間指導計画に基づき、各年齢ごとの子ども達の発達を理解した上で、遊びが充実するようなおもちゃの種類や数、片付けや収納、コーナーの作り方などの遊びの環境を整備していく。年間を通して、子どもの成長に応じて環境の見直しを図っていくなど、子どもたちの実情を把握しながら保育を進めていく。
クラスミーティングの充実を図る	クラスの担任全員が、子どもとかかわり方や保育内容などを共有した上で保育を行っていくことの重要性を認識し、クラスミーティングを月1回程度設定していく。日々の保育を振り返り、一人ひとりが発言し、意見交換や意思の疎通を図れるよう充実した時間を持つていく。
地域社会に主体的にかかわることで、行為の主体として社会に参画していく	子どもも社会の一員であること、社会に貢献できる力を持っていることを日々の保育活動を通して伝えていく。地域の環境問題などについて考え、自分たちが今できることを考え行動することで、人の役に立つことの嬉しさ、楽しさを知っていく。
障がいの有無にかかわらず、一人ひとりの発達特性を理解した上で、必要な配慮や支援を行う	障害の有無にかかわらず、それぞれ得手不得手があり、一人ひとり、配慮が必要な時があることをまずは頭に置くこと。今何ができて、何に困っているのかなど、子ども一人ひとりの状況をしっかりと見極め、理解した上で、必要な配慮や支援を行っていく。

令和5年度 保護者・こども園関係者評価

令和5年度 保護者会会長

子どもの心身の土台づくりとなる、リズム・はだし・描画活動などに力を入れてくださり、又、その大切さや意味を保護者へも発信してくださっているので、感謝しています。
今後も子どもをまん中においた保育の実践を望みます。